11 筑波大学附属病院

病院の概要

開設	1976 年３月
開設者	国立大学法人筑波大学
院長名	原　晃
病床数	800 床
標榜科（35科）	内科、膠原病・リウマチ・アレルギー内科、腎臓内科、泌尿器科、血液内科、感染症内科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器・移植外科、内分泌・代謝・糖尿病内科、乳腺・甲状腺・内分泌外科、循環器内科、心臓血管外科、腫瘍内科、脳神経内科、脳神経外科、脳卒中科、精神科、小児内科、小児外科、産科、婦人科、救急科、麻酔科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、腫瘍放射線科、放射線診断科、病理診断科、歯科口腔外科
指導医数	260人
研修医数	112人
研修医の主な出身大学	筑波大学、山形大学、秋田大学、東京医科大学、獨協医科大学、日本大学、東邦大学、埼玉医科大学、東京女子医科大学、弘前大学、富山大学、山梨大学、愛媛大学、宮崎大学　他
外来患者数	1,817人／日
入院患者数	710 人／日

募集要項

応募資格	2023 年３月国家試験合格見込者
採用人数	88名（一般）4名（小児特別）2名（産科特別）1名（研究医特別）（予定）
試験日程	2022 年８月中旬～下旬頃 ※研究医特別のみ5月
選考方法	面接、OSCE
処遇	■身　　分：医院（研修医） ■給　　与：1年次・2年次 基本的に諸手当等を含め年収約400万円 ■社会保険：有り ■宿　　舎：有り ■そ の 他：

応募・問合せ先

筑波大学附属病院

〒 305-8576　茨城県つくば市天久保 2−1−1
担当者：病院総務部総務課　総合臨床教育センター係
ＴＥＬ：０２９−８５３−３５１６・３５２３
ＦＡＸ：０２９−８５３−３６８７
E-mail：kensyu@un.tsukuba.ac.jp
ＵＲＬ：http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp

■つくばエクスプレス秋葉原駅から快速利用、終点「つくば駅」(45 分)下車後、A3 出口「つくばセンター」バスターミナルで乗り換え※
■東京駅・八重洲南口（2番のりば）から高速バス（筑波大学行）で「筑波大学病院入口」で下車又は（つくばセンター行）で終点（60 分）下車後乗り換え※
■ ＪＲ常磐線・土浦駅西口（2番のりば）から関東鉄道バス又は関鉄パープルバス（筑波大学中央行）で「筑波大学病院入口」(30 分)下車、又は（つくばセンター行）で終点（25 分）下車後、乗り換え※

■ＪＲ常磐線・ひたち野うしく駅東口（1番のりば）から関東鉄道バス（筑波大学中央行）で「筑波大学病院入口」(30 分)下車　又は（つくばセンター行）で終点（25 分）下車後、乗り換え※
※「つくばセンター」での乗り換え：6 番のりばから、「筑波大学循環（右回り）」又は「筑波大学中央」行きのバスで約 5 分、「筑波大学病院入口」で下車

病院見学対応状況

■ 見学時間…随時（平日）
■ 対象…全学年
■ 宿泊…可能　学内宿泊施設等
　料金：2,600 円～ 3,700 円
■ 問い合わせ先
　担当者：病院総務部総務課
　　（総合臨床教育センター係）
　TEL：029-853-3516、3523
　E-mail：kensyu@un.tsukuba.ac.jp

女性医師支援

筑波大学では育児中の女性支援に積極的に取り組んでいます。初期研修では産休・育休の取得、附属の保育園の利用、病児保育の利用が可能です。後期研修ではさらに短時間勤務制度が可能です。また、初期研修中でも専門研修中でも教育センター専任教員が出産・育児にあわせた研修カリキュラムの調整や相談対応を個別に行っています。

研修プログラムの特色

幅広い研修の選択肢と魅力ある病院群で、一人一人にあった研修が可能であることが特徴です。必修科目、選択科目それぞれに大学病院と市中病院を選択することができます。大学病院を中心に研修をしたい場合は地域医療研修期間（４週間）以外の全てを大学で研修を行うことも可能であり、市中病院を中心に研修したい場合には最大１５ヵ月を協力病院で研修することが可能です。大学病院ではプレゼンテーションや多科合同のカンファレンスなどを通して１例１例を深く掘り下げて学ぶことができ、協力病院にて common disease を数多く経験することができます。

また、外来研修として半年間週１回という研修形式で診療所で研修することが可能です。診療所研修で在宅医療の経験や医療の継続性・保健・医療・福祉の連携などについて研修することができます。

一般プログラムの他、小児科特別プログラム、産科特別プログラム、研究医特別プログラムがあります。（特別プログラムの詳細は個別にお問合せください）

研修スケジュール例

例１　幅広く様々な科で研修

1年次												2年次											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科（院外）			救急（院外）			内科			整形			麻酔科		産婦人科		小児科（院外）		皮膚科（院外）		精神科	地域	外科（院外）	
												外来研修（診療所週１回）											

例２　専門分野（耳鼻咽喉科）を重点的に研修

1年次												2年次											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
耳鼻科		救急		麻酔科		内科（院外）						地域＋選択		小児科（院外）		産婦人科（院外）		耳鼻科（院外）		精神科	耳鼻		
												外来研修											

※すべての診療科で選択研修が可能です。県内すべての基幹型研修病院と連携しています。
※研修スケジュールは個別に希望調査の上、総合臨床教育センター専任教員が個々の希望を調整しながらローテーションを組んでいます。

専門研修の募集について

新専門医制度の１９基本領域のうち臨床検査を除く１８基本領域で基幹型研修施設となっております。
専門研修においては大学院に進学しつつ専門研修を行うアカデミックレジデント、専攻医の出産、育児を支援する育児支援制度である女性支援レジデント、海外留学支援制度などがあり、多彩なキャリア支援を行っております。
基本領域ごとの専門研修プログラムの内容は総合臨床教育センターのホームページ内「後期専門研修」をご参照ください。

研修・認定施設一覧

主要学会全ての教育認定施設となっております。筑波大学附属病院ホームページでご参照ください。

病院からメッセージ

総合臨床教育センター部長
瀬尾　恵美子

筑波大学附属病院は、開院以来先進的な医学教育プログラムの構築に努めてきました。

卒前、卒後、生涯教育を統括する総合臨床教育センターに専任教員を配置し、一人一人に最適な研修を提供できる環境を整えています。充実した指導体制･研修管理体制･教育資源を持つ大学病院と、common disease を中心に数多くの症例を経験できる協力型市中病院の両方の利点を取り入れた当院の研修プログラムは、研修医ごとに希望に合わせて組まれており、一人として同じ内容はありません。また、専門医の取得や大学ならではの研究医の養成、海外留学制度、女性医師の出産育児支援の充実など、臨床研修の先のキャリアの広がりも当院の研修の魅力です。ぜひ、医師としての第一歩を筑波大学附属病院で踏み出し、自分の目指すキャリアを実現させてください。

研修医
立川　茉里絵

筑波大学附属病院の研修プログラムの最大の特徴は、大学病院、複数の市中病院を自身の希望に合わせてローテーションを組むことができる自由度の高さにあると思います。その柔軟性故に、将来進む診療科が決まっている人、研修を通して見つけていこうと思っている人双方に魅力的なのではないかと思います。

例えば私は学生時代より小児科医を志しており、初期研修は小児科を軸にプログラムを考えました。専門性の高い大学、common disease を診ることができる市中、また地域研修を利用して茨城県立こども病院と、合計 7 ヶ月もの期間で小児科を選択しました。また、小児科に関連の深い小児外科、産科を経験できたことも大学病院ならではと思っています。さらに、小児救急コースを選択したため、市中病院は成人・小児双方の救急医療が盛んな筑波メディカルセンターで研修を行い、年齢層を問わず幅広い疾患の急性期の初期対応を学ぶことができました。様々な病院で研修することにより一定の負荷がかかり、良い緊張感を持って充実した研修を行えたと思っています。

診療科が決まっているからこそ他の診療科を重点的に回ることや、研修を行いながら 2 年目でローテートする診療科を考えるなど、多様なニーズに合わせて主体的に研修を決められるからこそ、どの人にとっても満足度の高い研修になるのではないでしょうか。

研修医の出身大学は筑波大学と他大学が同程度の割合であり、私自身も他大学出身ですが不便を感じることは一切なく、自然に溶け込むことができました。また、後進に対する教育的な土壌があり、多くのことを上級医から教えていただける他、研修医も学生へ説明することで自身の理解が甘い部分も浮き彫りになり成長につながりました。他にも産科では帝王切開の執刀医となったりと、貴重な経験もでき、上級医の指導の下、研修医が担当できる範囲が広いことも特徴です。

皆さまにおいても当院で自分だけのオリジナルプログラムを作り、充実した研修を送れるよう、応援しています。